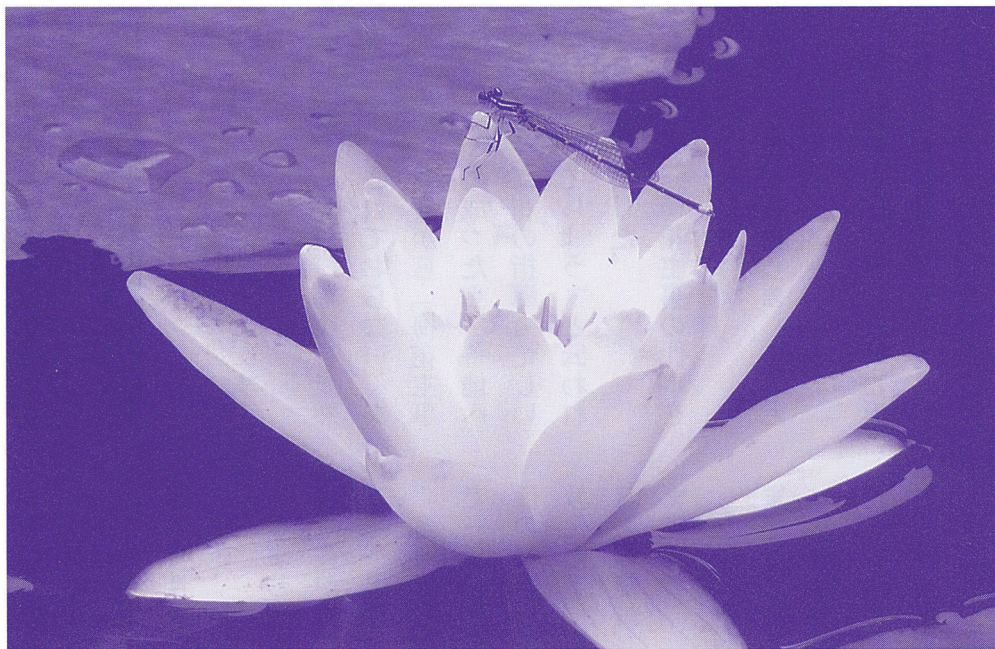


やすらぎねごう 祈りこそ
蓮の ひらく えにしなり



平成19年8月10日

第27号

発行 梅花流師範・詠範の会
会長 柴田弘一
題字 初代会長・故加藤信三師
編集者(広報部) 亀谷 隆道

梅花流師範・詠範の会事務局
五城目町 待月院 嶋森憲雄
電話 (0188-52-9566)

「赤松老師に梅花の本道を学ぶ」

秋田県梅花流師範・詠範の会 会長 柴田弘一

先般、ある講習会で、梅花流創立当初から歌詞制定委員として詠讃歌の作詞にたずさわって来られた赤松月船老師の「自撰詠讃歌集」を目にする機会がありました。(昭和五十七年発行)

その中に、梅花流創立三十周年を迎えた折、次の様に赤松老師は記しています。

『梅花流が詠讃歌としては全くゼロからの出発であり、宗務庁当局や、これに参画協力した先人達建設創造の苦辛、全く生命をかけての努力であったことを決して忘れてはなりません。この事はいかなる言葉をも以つても尽くし難い貴重なものがあります。』と。

又、梅花流の定位された根元と風格については「美しさをこそ」と題して次の様に述べておられます。道元禅師和歌集の中の『「紫雲」 草の庵にねてもさめても申すこと 南無釈迦牟尼佛 あわれみたまえ』や、「梅花」 荒磯の波もえよせぬ高岩に かきもつくべき法ならばこそ 水鳥のゆくも帰るもあと絶えて されども道は忘れざりけり。」「溪声」 峯の色溪の響もみながら わが釈迦牟尼の聲と姿と。」「月影」 世の中は何にたとえん水鳥の 嘴振る露に宿る月影』を取り上げ、『こういう詠歌が無かったとしたら、教典の評価は半減するでしょう。この格調の高さと内容の深さとまた森厳さ——それによつて、これに伴うすべての詠讃歌が引き上げられて、おのずからなる品位を保つことができます。』

ただ、道元禅師の御詠を頂くに当たり、法の道理の上からの了承だけではいけません。歌としての文学として、美しい律格を味わいうる鑑賞の豊かさがないと、詠讃歌としての価値づけに行き足らぬ点があることを思います。』

更に、「詠讃歌と禅」と題し

『詠讃歌は梅花の場合におきましては、坐禅に始まり、坐禅に収まる。これではなかつたら宗門の教化の一翼を担うという所詮(いわれ)がない——あくまでも、私はこのことを力説したのであります。(中略)。「浄心」の「濁りなき心の水に澄む月は」はこれが坐禅であり、「波もくだけて光とぞなる」坐禅よりの展開としてのこれが行持であります。行持の一つとしての詠唱を考えていないと、梅花は梅花の本質を失うこととなります。』

又、永平寺での十五周年大会時示された熊沢泰禅師の「調べは高く声は静かにして一心和らぐ」を受けて『梅花流詠讃歌の本来とする浄心の趣はまさしくかくの如くであつて、(中略)梅花永遠の道の姿の挙揚のほかではありません。』と述べておられます。

赤松月船老師御姿

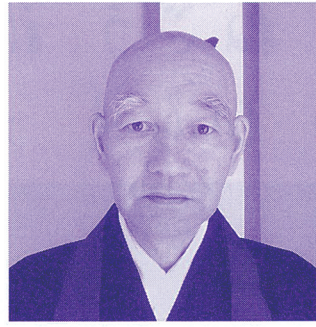


老師の自撰本より一部抜粋して記載しました。私は赤松老師のお話を何度か訪ったことがありましたが、この本と出会えたことで、改めて梅花流詠讃歌の本道を学ばせていただいた気がしております。

新梅花主事ごあいさつ

北秋田市本城

浄福寺住職 奥山 芳寿



先般、梅花を全然
されておられない、あ
る方から「梅花主事
に成ったら、各地へ
梅花の指導で忙しい
でしょう」と云われ
ました。

梅花をされておられても、梅花主事の仕事を
よく知らない方がおるかと思えます。

梅花主事を昨年十二月に拝命しまして、七
ヶ月過ぎました。

前梅花主事の円通寺様より引き継いだ時は全
国大会の参加申し込み受付の途中でした。

今回の全国大会は五年に一度の記念大会で年
功賞等有り、受付は大変気を使いました。

検定合格者の申請書類、教階補命もぼつぼつ
入って参り、一段落した処で特派講習会の準備。

各教区の日程調整も順調に進み、県北地域と中
央・県南地域の特派師範先生お二人共好評のう
ちに巡回も無事に終わりました。

今は全県奉詠大会と検定会の準備中で、特に
奉詠大会は前梅花主事老師のアドバイスの元進
めておりますが、これからお盆にかかり心配な
処も有ります。

処で、昨年十一月、宗務所梅花主事の依頼が
有りました時は全くビックリ致しましたが、宗
務所長が当教区の正法院老師で、気持ちを察す
るに、引き受けざるを得ませんでした。

当地は旧森吉町で秋田市の宗務所までは、車
で一時間十五分、週二〜三日は出務し、梅花関
係の事務をするのですが、宗務所長、副所長、
教化主事、庶務主事、人權主事に、書記二人で
八人の職員、常時三〜四人で忙しく動いており
ます。

全県三百四十七ヶ寺の内、梅花講設置寺院は
まだ百三十ヶ寺に満たず、約三十六%です。

今後は講の少ない県南地域を中心に開拓し、
梅花の道を創って参りたく、関係師範諸老師の
お力添えを期待しております。

最後に、宗務所梅花講、禅センター梅花部共
に、講習会、諸行事等への参加ご協力を切にお
願い申し上げ、併せて梅花講員各々心身堅固と
各ご寺院梅花講の益々盛んに成ります事を祈
念申し上げます。

テレビホン梅花

801ハーフセー七六七六

(毎週土曜日にテープが代わります。)

八月 四日 戦災精霊供養 (和)

十一日 孟蘭盆会 (和)

十八日 慈念

二十五日 永光 (永平二祖)

九月 一日 追善供養 (和)

八日 妙鐘

十五日 開山忌 (和)

二十二日 真清水

二十九日 法灯 (高祖)

十月 六日 達磨 (和)

十三日 廓然

二十日 新亡精霊供養 (和)

二十七日 正法 (和)

十一月 三日 太祖誕生 (和)

十日 法灯 (太祖)

十七日 太祖影向 (和) 伝光

二十四日 永光 (總持二祖)

十二月 一日 成道 (和)

八日 明星

十五日 浄心

二十二日 同行 (和)

二十九日 道交

※ご意見、ご要望等をお気軽に
お寄せ下さい。

〒010-0111

秋田市金足岩瀬字前山三

東泉寺(011-8187311-2675)

「^{うた}歌^{かい}会^{はじめ}始^ぎの儀」 入選、宮中へ

今年一月に行われた宮中行事「歌会始の儀」に山中律雄師範老師が一般入選者の中に選ばれました。老師は高校時代より歌作を始め、歌集も刊行して県芸術選奨受賞、現在はNHK短歌講座の講師を始め新聞詩壇の選者をつとめるなど梅花特派師範と合わせて活躍されており。今回は初めての経験を寄稿して頂きました。

「歌会始」

禅林寺住職 山中律雄

映像に見し月山の朝のあめ

昼すぎでわが町に移り来

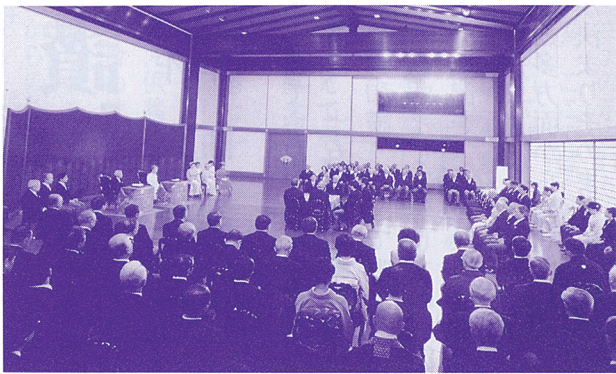


その朝、何げなく見たテレビには、逝く夏の雨に煙る月山が映し出されていた。雨はやわらかな光

をとめないながらしみじみと降りそそいでいる。昼過ぎ、私達の町にも雨が降り出した。静かに降る雨にふと心が動いて、「この雨は、朝方、月山に降っていた雨なんだろうな」と思ったのである。会心の作というほどではないが、自分では気に入った歌であり、時間的な移ろいと、空間的な拡がりを感じられるといえは不遜だろうか。

昨年十二月、宮内庁式部職から電話で問

い合わせがあり、後日書類とともに歌会始入選の知らせが届いた。もともと応募しようと思つて作つた歌でないものが入選してしまつたのだが、マスコミ発表後の騒ぎは火遊びをしていた子供が、炎が大きくなつて慌てているという戸惑いに似ていた。一月十五日、東京は抜けるような青空であり、どこか晴れ晴れしい感じがした。タクシーに乗り込んで皇居に向かつたのだが、皇居には南と北の二か所に車止めがあり、私は南車止めに迎入れられた。ちなみに南車止めは、国賓など、ごく限られた人しか使えないとのことであつた。



皇居では「松風の間」という控室に通されたが「松風の間」は、勲二等の叙勲が行われる部屋であり、車止めといい、控え室といい、自分が特別な扱いをされているのにおどろいたのである。

歌会始は午前十時半から始まつた。両陛下に皇族、各界の招待客などお

およそ百名の参列者がいた。場所は「松の間」。「松の間」は、総理大臣や国務大臣の認証式、勲一等の叙勲や特別な宮中行事が行われる部屋で、皇居の中でも一番格式の高い部屋である。皇居の中は絨毯敷きなのだが、「松の間」だけは板敷きで、歌を披露する講師の声はこのほか澄明で伸びやかに聞こえるのであつた。

歌会始そのものは一時間十五分で終わったが、直ちに両陛下との拝謁があり、一人五分ほど言葉を交わすことが出来た。その後宮内庁の建物に移り、昼食や茶話会、記者会見など、夢のような時間がまたたく間に過ぎ去つていったのである。

この世はすべてのものが移ろいゆく『無常』の世界である。そうした移ろいゆくものを「愛惜」する心に基づいて、たまりかねてあげる嘆声(なげき)が私の「歌ごころ」である歌を作っていると、日常の裂け目や、見えそうでいて、なかなか見ることのかなわぬい真実が見えてくることがある。そうした時私は得した気分になり、一等の果報を感じるのだ。

来年のお題は『火』。締切は九月末日。宮内庁のホームページを開くと応募要項が出てくるので、その気になつたら子供さんやお孫さんに頼んでみればいい。ひよつとしたら皆さんも夢のような世界を体験出来るかも知れない。

梅花流詠讚歌新曲披露

『新亡精霊供養御和讃』 ～ 思い深く ～

作詞 梅花流専門委員会
作曲 細川潤一

新曲

『新亡精霊供養御和讃』

誕生秘話

柴田弘一

宗務庁では今年の梅花流創立五十五周年記念奉讃大会に合わせて、新曲を発表することを決定。「供養に関する新曲の作詞について」として梅花流専門委員会の中に「検討作業部会」が設置されたのが昨年の十月下旬でありました。

委員には昨年発表された新曲「まごころに生きる」の原詞作成に携わった伊藤皓元師（島根県）と私、そして新たに臨時専門員の鬼頭広安師（東京都） 渡辺清徳師（栃木県）



の四名が当てられ作詞に執りかかりました。

曲の法は、十五年前に奉詠禁止となった「盃蘭盆供養御和讃」として唱えられていたものですが当時名曲として親しまれ、講員増にも寄与したその曲譜を、是非復活させて欲しいとの機運が高まる中で、当時の禁止になった経緯や意見など多方面から検討されて、ついに曲譜の復活が決まりそのまま用いることになりました。「供養に関する新曲」としたのは、前伝道部長西村喜候老師の思い入れと共に、「亡くなられた人へ手向ける七日七日に唱えられる四十九日までの和讃がほしい」との各地から寄せられた強い要請に応えるかたちで、復活の曲譜と合わせ発表することになったのです。

テーマは、一番を愛別離苦、二番追慕、偲ぶ三番報謝、四番を安心と仮題として、いよいよよ作詞にとりかかりました。

ところが詩ごころのない私は筆が動かず、第一歩がなかなか踏み出せません。と言いますのも梅花教典の「供養に関する和讃、御詠歌」を読み返してみますと、その一言一句が珠玉の如くに見え、改めて詞の素晴らしさに気付かされました。作詞をされた方々に対して敬意の念を

抱かずにはおれませんでした。

はてさて頭をかかえながらようやく綴った文言はどれも稚拙に思えるものばかりでしたが、兎も角も四番迄一応書き上げました。

委員それぞれの詞を持ち寄り、検討して一本にまとめ、それを部会からの報告として専門委員会に提示し、今度は全員で更に推敲を重ね、忌憚きたんのない意見を交わし行く中で、テーマを一番は無常、二番追慕、三番祈念、四番を回向とすることとし、長い時間がかかりましたが歌詞がまとまりました。

次に「詠題」をどのようにするか。一人一人が出した案は次の如くでした。

- 「中陰回向御和讃」 「忌中回向御和讃」
 - 「七日供養御和讃」 「七七供養御和讃」
 - 「精霊回向御和讃」 「新亡回向御和讃」
 - 「新亡精霊回向御和讃」 「新亡精霊供養御和讃」
 - 「追悼回向御和讃」 等々でありましたが、皆の意見を集約し、最終「新亡精霊供養御和讃」とすることで決着したのでした。
- かくて梅花審議会を経、内局のOKが出され新曲発表となったわけであります。

歌詞解説

歌詞の内容をかいつまんで記してみます。

(一) 永遠の身命と願えども 無常の風にさそわれて 愛惜みて散れる花なれど 別離の涙頬つたう

一番は無常と題し、別れと苦しみを表現した詞です。

永遠のいのちを願うとともに、幸せであればあるほど、その状態がいつまでも続いてほしい思うのは自然な願いでありましょう。

仏教では、その願いははかなく、すべては移ろうものである。と無常観を説いています。

「愛惜みて散れる花なれば」は、単なる情景を表現しているだけでなく、惜しまれて死に逝く人を、風や雨などによって愛する花が散っていくさまに例えた一節です。

「別れの涙」は「愛別離苦」＝愛する者と別れる苦しみを表現しています。死別は言葉では言い表すことのできないほど苦しく辛いのです。

(二) 揺れる灯明あゝの笑顔 あなたに逢えたよろこびと 深い絆に結ばれた 煌めく慧命忘れ得ん

二番は亡き人の回想と追慕を表現しています。揺れる灯明あゝの笑顔は葬儀を終え、家族が集まり語らうとき、ふっとローソクの灯が揺れる。それを見た人が、亡き人がやってきたのではないかと

(一) 永遠の身命と願えども 無常の風にさそわれて 愛惜みて散れる花なれば 別離の涙頬つたう

(二) 揺れる灯明あゝの笑顔 あなたに逢えたよろこびと 深い絆に結ばれた 煌めく慧命忘れ得ん

(三) 香華供えて調す身に 想いはおのずと深まりて 安寧念う祈りこそ 蓮の開く縁なり

(四) 七七供養の毎日に 戒名を称えて掌を合わす 行持むる而今のまごころを 回らし手向けん みほとけに 回らし手向けんみほとけに

言う。その人に出会えたよろこびを感じ、深い絆で結ばれていたことを思い起こしていくと、追慕の念がいつそう深まって参ります。

一人の死には、多くの回想があり、追慕の念が広がります。

「煌めく慧命」の慧命は、もと

もと仏さまの示されたさとり智慧を生命にたとえた言葉で、ここでは亡き人の煌めく遺業であり、長く受け継がれてゆく人生のお手本としての生き方を表現しており、さらに仏さまの智慧が受け継がれているように、「忘れ得ん」とお唱えすることで、受け継ぐことを強調した歌詞としてとらえてください。

(三) 香華供えて調す身に 想いはおのずと深まりて 安寧念う祈りこそ 蓮の開く縁なり

三番は祈念とし、やすらぎを願う表現の詞です。香、花、灯明、水、飲食や亡き人の好きだった品

々など供え供養しますが、そうして身も心もとのえて掌を合わせる中に、おのずと亡き人のやすらぎを祈念するおもいが深まっていきます。また逆に、亡き人からのご加護を願うこともあるでしょう。

「蓮の開く縁なり」蓮は美しく優雅な花、生命力の強い花、正しい教えにたとえて用いられる花です。



そんな蓮に表される清らかな世界での死者の安寧を願う心を表すとともに、愛しい人との別れを機縁として、み仏の教えに出会い絆を深めていくことも示しています。

(四) 七七供養の毎日に 戒名を称えて掌を合わす 行持むる而今のまごころを 回らし手向けん みほとけに 回らし手向けんみほとけに

四番は回向とし、自らの善行を手向ける内容です。七七供養の毎日に「七日ごとに営まれる忌日や戒名を称えて掌を合わす」は戒名を「みな」と

唱え、亡き人その戒名で呼んだり、生前と同じように呼んだりします。

「行持むる而今のまごころを」はまごころを込めて行う供養を繰り返して、法話や教典などを通じて、心静かに自分自身を振り返ると見えてくるもの。それは無常の世の中にいま生きていくという自覚でしょう。そこから正しい生き方を求めようとする心が芽生えて来ます。これを「菩提心」といい、さとりを得ようと努める心を用いるのですが、世のため人のために為す行いもさします。

「回らし手向けんみほとけに」自ら行う供養などの善行をみ仏や亡き人に手向けていく。供養を通して知るみ仏の教え、み仏の教えを信じて行う供養。これが「回向」なのです。

死を悼み、苦しみ、悲しみ、回想や追慕を通じて亡き人の幸せを祈念し、み仏の教えに出会えたよろこびの中で、自らの善行をみ仏や亡き人に手向けていく、これが七七供養であり、今回の御和讃のテーマであります。



おらほもやつてるよ

阿部伸世師範研修会報告

宗侶寺族編

「一泊講習会を受講して」

乗福寺寺族 中泉 幸

梅花流師範・詠範の会では、会員の質向上と親睦を深めるため、毎年一泊研修会を計画しております。ここ四年間、山形の余目乗慶寺住職阿部伸世一級師範を講師にお招きしました。

乗慶寺様は、全国一講員人数の多いことでも知られております。先生は奥さまと手分けして、講員の指導をしておられるそうです。それでも晩酌する時間がないとのこと。ほんとうに多くの時間を梅花流のご指導に費やしておられる人だなくと思えました。

庄内地方のお通夜には、地域の方々から詠讃歌のご供養をいただいで、大切な人をあの世に送ってさしあげるのが習慣だそうです。この風習は梅花流に対して先生と講員、檀家さんの絆を深めていると思います。

先生の堂々たる風格は、ご自身のご努力と講員との絆の深さからくるものでしょう。

指導に当たっては、ご自身で工夫し



て作られた教材資料を用いて一人一人繰り返し教え、励まし、最後にほめてくれるのです。眠ってなどいられません。この講習会は、先輩ご老師様の何ともいえない味のあるお唱えがあります。また、若い師範・詠範が年々上達し、自信に満ちて唱えていく様子などにもふれられます。

私にとっては、これらのことも感謝なのですが、日常の雑用から開放され詠讃歌との時間を過ごせる幸せな一時でもあります。欲を出して、ここで学んだことを講員さんに伝えたいとも思うのです。

年々講員人数が減少しています。受講者も少かりです。気がかりです。ふるってのご参加を希望します。

ひとよしお先に...

県南一泊研修会開催

横手市香最寺にて

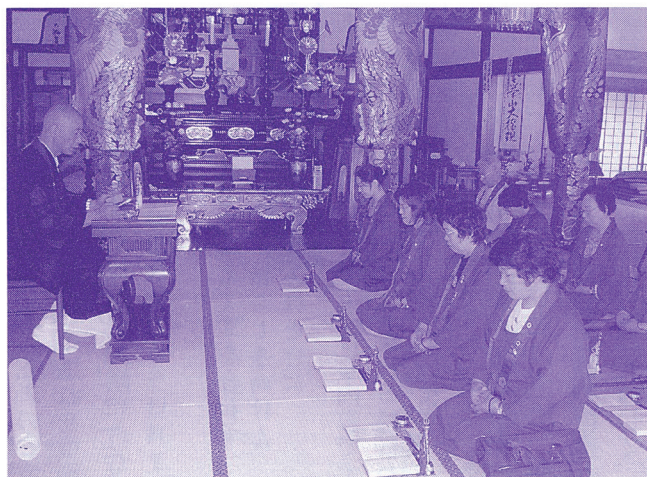
香最寺寺族 国安芳子

去る七月十七日〜十八日と横手市平鹿町香最寺にて講員一泊講習会が開催されました。

県南地区では初めてということに参加人数も不安がありました。三十名以上のご参加を得、四人の講師の先生のご指導を仰ぎながら、二日間の全日程を終えることが出来ました。

特に今回は第一日目の夕食後、満燈供養を修行しました。何本ものローソクの灯りがともる本堂での奉詠は、参加者皆様の心に大きな感動と思いの出を残すことが出来ました。

また、いつもとは違う団体での講習、夕食のお弁当、近所の温泉入浴、本堂にふとんを敷いての睡眠、朝のお勤め、お粥の朝食等、まさに一泊研修ならではの経験が出来たことで、早くも来年も参加したいという講員



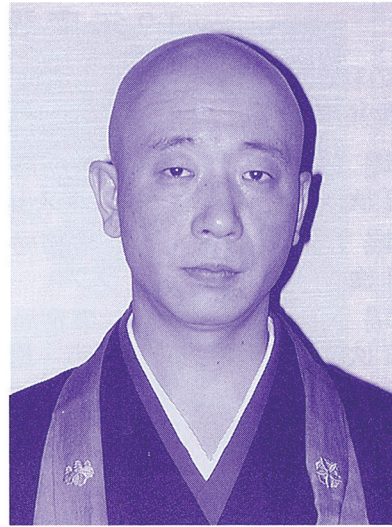
さんもおられました。

最後にこの度の計画を綿密に実行して下さった事務局様、貴重なお時間を割いて懇切丁寧にご指導頂いた師範の先生方に御礼を申し上げます。研修会の報告とさせていただきます。

特派師範巡回報告

『特派三年目を迎えて』

長谷寺住職 浅田高明 師範



出るか、ちゃんとお唱えできかななどと、本当にびびりながらお唱えしていました。そんな緊張の中でも、同安居、師範養成所同期、青年会でお付き合いのあった方などとの再会もあり、楽しい一時も過ぎました。

各地を巡回させて頂き、まず感じることは梅花に対する皆さんの熱意が、全国何処でも変わらないということです。特に、梅花に対する取り組み方は人それぞれと思いますが、その人なりに梅花を楽しんで頂いている姿を見、「私梅花が大好きなんです」と言う言葉を聞くと、本当にうれしくなります。

平成十七年度に特派師範を拝命し今年で三年目に突入致しました。初年度は岩手県と大阪府を巡回させて頂きましたが、もう！ホントに緊張の連続！当然のことながら講習そのものばり張り、そしてお逢いする宗務所役職員さん、教区長さん、教場主さん、地元の師範さん方との御挨拶や色々なお話でも緊張。寝ている間も緊張しているのか、毎朝必要ないぐらいに朝早く起きておりました。(初日は四時に起きてしまいました)特に緊張したのが開講式でお唱えする浄心。今日は声

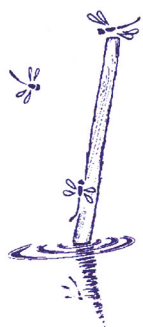
そんな中で全国共通の悩みがあります。梅花講師さんの減少です。ある県では毎年八十名もの講師登録の抹消がなされているそうです。新規の講師さんをなかなか獲得出来ずにいる中で、一方では高齢などの理由で大勢の方が梅花講を退講しています。

巡回していても、平均年齢が高いことに危機感を感じずにはられません。

梅花講が爆発的に発展した頃とは時代が違うと言ってしまうばそれまでかも知れませんが、梅花の楽しさ、ありがたさ、同行同修の喜びは変わらないと信じます。特派師範はもちろんのこと、梅花に関係する皆様に御協力を頂き、もつともつと梅花の輪を広げていく努力をしなければいけないと痛切に感じています。

昨年は青森県、岡山県そして今年には春に宮城県と愛知第三宗務所管内、秋には大分県を巡回させて頂きます。初年度と比べるとずいぶん精神的には慣れてきましたが、お唱え作法も未熟ですし、梅花の楽しさを伝える技術もまだまだと何時も反省しております。

これからも皆様に益々御指導頂き、少しでも梅花と講師さんのお役に立てるよう精進してまいりたいと存じますので、どうぞ宜しくお願い致します。



梅花行事ご案内

検定会のお知らせ

～19年度課題曲決定～

平成19年度の秋田県宗務所主催梅花流検定会を、下記の日程にて開催致します。平素の練習の成果を発揮する機会ですので、ぜひ受検下さいませようご案内致します。

- ◇ 県北検定会場 (九・十教区) 事務局 盛澤寺 ☎0185-76-2042
9月11日(火) 会場/ニッ井ヘルスセンター
- ◇ 県北検定会場 (十一・十八教区) 事務局 天昌寺 ☎0186-62-0647
9月7日(金) 会場/北秋クラブ
- ◇ 県南検定会場 事務局 東林寺 ☎0184-22-3437
9月11日(火) 会場/由利本荘市・慶祥寺
- ◇ 中央・3級検定会場 事務局 宗務所梅花主事 ☎018-868-6871
9月7日(金) 会場/秋田市・さとみ温泉

◎ 詠範 (寺族) 検定課題曲

補 教 聖号・修証義
詠 範 補 梅花・入寂 (立行)
五級詠範 無常・観音 (立行)
四級詠範 不滅・明星・妙鐘・涅槃・追弔より数曲出題 (※和讃は立行あり)
三級詠範 廓然・慈光・法灯・孟蘭盆・同行・御授戒より数曲出題
(※和讃は立行・分節詠唱あり)

◎ 檀信徒検定課題曲

教 導 三宝・正法
権正教導 聖号・修証義
正 教 導 浄心・紫雲 (高祖)
権中教導 梅花 (高祖1・太祖2)・誕生 (太祖) より2曲 (和讃は立行)
中 教 導 溪声 (永平寺1・総持寺2)・菩提 (太祖) より2曲 (和讃は立行)
権大教導 讃仰 (太祖)・法灯 (高祖)・無常～月影 (連続) より数曲出題
(※和讃は立行あり)
大 教 導 花祭・明星・不滅・観音・浄光・追弔より数曲出題 (※和讃は立行あり)
三級教範 紫雲 (釈迦)・梅花 (高祖2・太祖1)・浄光・御授戒・孟蘭盆・追善・
同行より数曲出題 (※和讃は立行あり)

■ 禅センター梅花講習

【宗侶・寺族研修会】(午前十時半～午後三時半)

十月十五日(月) 講師 佐藤俊晃師範

十月十五日(月) 講師 高祖一代記

十一月十二日(月) 講師 岩館祖芳師範

十一月十二日(月) 講師 太祖一代記

【檀信徒講習会】(午前十時半～午後三時)

九月十四日(金) 講師 三浦賢翁・村松良周師範

十月十二日(金) 講師 誕生御和讃・菩提

十月十二日(金) 講師 柿崎隆穩・清水道広師範

十一月九日(金) 講師 二祖讃仰御和讃・永光

十一月九日(金) 講師 亀谷隆道・鈴木泰賢師範

十二月十四日(金) 講師 讃仰御和讃・法灯

十二月十四日(金) 講師 小野碩瑛・村松良周師範

十二月十四日(金) 講師 成道御和讃・明星

※受講は無料です。昼食持参でお気軽にご参加下さい。
初心者、上級者の二会場にて

■ 檀信徒講習員一泊研修

◎ 県北地区 日時 十一月十三日(火)～十四日(水)

◎ 中央地区 会場 北秋田市上杉太平寺

◎ 県南地区 日時 十月二十五日(木)～二十六日(金)

◎ 中央地区 会場 由利本荘市矢島龍源寺

◎ 県南地区は終了しました。

※会費、詳細は決まり次第各講長さんへ

通じてご案内致します。

※他の地区の研修会にも参加できますので

申し込みはお早めに。

■ 秋田県梅花流奉詠大会

日時 八月二十六日(日)

会場 秋田市 秋田県立武道館

※昨年と同じく正午から開会となります。

既に登壇奉詠曲も練習中だと思っておりますので

昨年より多数のご参加をお待ちしております。

詳細は後日、お知らせ致します。